春の守門

―静寂の峰々に遊ぶ―

2009 年 4 月 11,12 日

山本(Ｌ,記)、釣

4/11（土）快晴

生来スキーは苦手の方だが、下手の横好きで春のスキーは欠かせない。真冬の深雪では苦労するが、雪が締まってくると何とかこなせるようになるので、「ザラメスキーヤー」と自称している。この時期なぜか越後方面へ足が向いてしまう。特に守門、浅草地域は入りやすいせいかお気に入りで、去年も浅草に行ったが 5 月中旬では少々遅すぎた。

五味沢の駐車場ではあまり雪がなく、破間川にかかる黒姫橋を渡って林道でようやく雪の上となる。林道終点から右下の下黒姫沢へと急斜面を下ると、すでに雪解け状態で沢は露出している。天気は晴れ渡り沢は明るく開けて気持ちは良いが、水流が出ているので 2 回ほど渡渉するハメになる。例年なら沢は雪で埋まっているようだが、今年は寡雪で下部は右左とスキーを履いての溯行状態だ。そのうち沢が狭まってきたので 700m付近より左岸の尾根へと取り付く。シールを効かせて急登暫しで 850m辺りの平坦地へ出てテントを張る。ブナに囲まれた別天地である。

今日は黒姫往復の予定だが 5 月の雪稜山行のための懸垂トレーニングもしたいので、設営後すぐに尾根を登る。目の前の急斜面を回りこみながら上へ上がると大雪原へ出る。黒姫から西へ続く稜線上の 1328 峰の下だ。ここでルートを西側の尾根へとってしまったため、雪庇下のトラバースを強いられた。

そんなことで時間をつぶしてしまい、黒姫往復を諦めてその雪庇付近で懸垂トレーニングをする事にした。土嚢袋や竹ペグ支点等いろいろ試したが、驚いたのはスノーボラードが結構確実ということだ。冬の雪なら別だろうが、この季節では有効だ。ただザイルが食込んでしまうため回収がしにくい。ザイルを直接かけずに長めのシュリンゲを残置ということになるが、しかしこれは立木でもない限り致し方ない。結局どの方法も使えるが、土嚢袋残置はなるべくしたくないねと言う結論。

1時間余りで切り上げて、スリバチ状に広がる素晴らしい斜面をＢＣへと快適に滑り降りる。この瞬間がたまらない。テントへ着けば、まずは「ビール」！目の前には浅草岳が大きく山裾を広げている。自然の声を聞きながらブナの林に囲まれて静かにＢＣライフを楽しむ。

五味沢 7:10～BC(850m付近)11:00-11:30～稜線手前(トレーニング)13:30-14:40～BC15:30

4/12（日）晴

今日は稜線から西側に守門岳を目指す。

1328m峰への南側急斜面をシールを効かせてジグザグに登りつめるとすばらしい展望が北側に広がる。眼前に八十里越えで通った烏帽子岳、西には駒ノ神と袴腰の間にチラリと守門本峰が顔をのぞかせる。大岳方面へ稜線が続くが、雪庇がさほど大きくないのにはがっかりさせられた。展望を楽しみながらスキー縦走して駒ノ神を越える。袴腰の登りは急な尾根なのでスキーをデポし、ストックとアイゼンで登りつめると守門岳は指呼の間である。山頂までは左右切れおちたリッジとなるが、特に困難もなく10時10分守門頂上へと着く。周囲は見渡す限り360度遮るもののない展望だ。特に下田矢筈山塊から会越にかけての眺望がすばらしい。

小憩後、山頂を後にし袴腰からデポ地点を経由して1328峰まで戻る。BCまで心ゆくまで滑降を楽しむ。BCでテントを撤収し、重くなったザックを背負い下黒姫沢へと下る。きのう登ったばかりなのに、流れは一日で幅が拡がっている。登りより苦労しながら板を外したりして下っていくが、途中一か所急な雪面を斜滑降で滑っていった釣さんが誤って沢へと滑落してしまった。幸い５ｍほどだったので大事には至らなかったが、全身ずぶ濡れのとんだハプニングとなった。

今回は黒姫を割愛したので、来年雪がもう少しある時を見計らってまた来たいと思う山行だった。

BC6:00～稜線8:00-8:20～守門岳10:10-10:30～BC12:30-13:40～五味沢16:00

地形図：守門岳(二万五千)